

時津町は「家読」を推進しています

たまには テレジケして

中学年向け 2025年 冬号



ときつちょうりつときつとしょかん
発行：時津町立時津図書館



「みんないっちゃん」

エーヴァ リンドストロム//作 菅木 晃子//訳
(小学館)

フランクはいつもひとりぼっちで、同じような毎日を繰り返しています。楽しそうなあのこたちに話しかけたいけれど、勇気がなかなかできません。いつものように、なみだをなべにうけて、それを火にかけていると、きょうはちょっとちがうことがおきるようです。

「牛革のランドセルができるまで 手から手へ、皮から革へ。」

上吉川 祐一//写真 文 (文一総合出版)

みんなが毎日せおっているランドセルは、「牛皮」でできている。そう、牛の皮のことね。1匹の牛から、肉は食用になり、皮は加工して、「革」になる。その革はカバンになったり、洋服になったり、いろんな物に形を変えて、利用されるんだ。「皮」が「革」になるまでのが、くわしく書いてあるよ。牛の「いのち」をいただいてできたランドセル、大事に使いたいね。

家族みんなで好きな本を読んで、読んだ本について話す。これが「うちどく（家読）」です。むずかしいルールはいりません。家族みんなでルールを決めてはじめてみましょう。

家族で同じ本を読みあつたり、おとうさんやおかあさんに読み聞かせをしたりと楽しい時間を過ごしましょう。



Illustrator ATSUOKO



「マグルスウィックの森のおはなし」
ヴィッキー カウイー//作 チャーリー マッケジー//絵 小宮 由//訳(主婦の友社)

イングランドの北東部、むらさき色のヒースでおおわれた、マグルスウィックの森での出来事。「森の魔法」に「ふしぎな虫」「屋敷のひみつ」など、ワクワクするお話が5つ。さあ、この赤い表紙を開いて、マグルスウィックの森へいってらっしゃい。



「絵くんとことばくん」
天野 祐吉/作 大槻 あかね/絵
(福音館書店)

あなたはお小遣いをいくらもらっていますか？ この絵本は小学生の優太くんが、お小遣いアップを訴えるポスターを作るお話をします。絵(くん)とことば(くん)それぞれが持つ力を發揮して、より効果的なポスターを目指します。できあがってはボツになるポスターたち。それがとっても愉快なんです！はたして出来上がったポスターはいかに？



「知ったかぶりをした日から」
かさい まり//作 おとない ちあき//絵
(岩崎書店)

東京から転校してきたばかりの私に、「ねえ、北川アオイにあったことある？話したことある？」とクラスの子が聞いてきた。歌手で女優の北川アオイがこの学校に撮影に来ることになったからだ。私はとっさに「う、うん」と言ってしまった。すると話はどんどん大きくなり、北川アオイと私は知り合いということになってしまった。どうしよう…知ったかぶりをしたばかりに…。



「きょうのぼくはどこまでだってはしれるよ」
荒井 良二/著
(NHK出版)

朝日をあびると、なんだってできそうな気がする。どこまでだって走れる気がする。本のページをめくるように、ぼくの前には新しい毎日がつづいているから。どんなにかなしい時も、どんなにさみしい時も、朝はかならずやってくる。それはぼくらと地球との約束だから。